

和文抄録

Osgood-Schlatter 病に対する少年サッカー競技者および指導者、保護者の認知度と理解度調査

順天堂大学
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4118049
氏名：鎌塚 正志

【目的】

少年サッカーチームにおける競技者・指導者・保護者を対象に Osgood-Schlatter 病 (OSD) に関するアンケート調査を行い、疾患および予防法に関する認知度と理解度の実態を明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象は、Y 県サッカー協会に登録された少年サッカーチームのうち協力が得られた 12 チームの 863 名（競技者 405 名、指導者 53 名、保護者 405 名）であった。その内、回答が得られたのは 396 名（回収率 45.9%）であった。アンケート調査は、Web 上の回答フォームまたは質問紙にて実施し、OSD の認知度と理解度の実態を調査するための設問を作成した。

【結果】

競技者、指導者、保護者において OSD の認知度が 76.5% で高い認識をもっていた。一方で、OSD の予防法についての認知度は全体で 13.6% と低く ($p < 0.05$)、さらに治療では 31.8% と理解されていなかった ($p < 0.05$)。また、OSD の予防法について指導を受けた競技者は 19.0%、指導者は 20.0%、保護者が 15.9% と低い結果であった ($p < 0.05$)。

【結論】

少年サッカー競技に好発する OSD の認知度は高いものの、予防法や治療法などの理解度は競技者および保護者、指導者ともに低かった。特に、指導者と母親が正しい教育を受ける機会が少ないことが関与している可能性が示された。